

(別添2)

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 認定こども園
事業所名 りんどう保育園

【第三者評価の判断基準】

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 ■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 ■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 ■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 ■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。 	○保育指針や理念・方針などを基に、全体的な計画が編成され、園独自の園目標がわかりやすく立てられています。 ○家庭との綿密な連携や、地域の特徴を考慮し、年間計画から月次計画、週案、日案、個人の指導計画が立てられ、実践、反省、自己評価を行い、次年度へとつなげられています。また、子どもの生活や発達の連続性に留意して計画を立てるための職員同士の話し合いを大切にしています。 ○各保育室には、常に確認できるように理念や目標が掲げられていました。
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 ■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 ■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 ■ 9 内装等には、木材を利用している。 ■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 ■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 ■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	○日々快適に過ごせるよう、レースのカーテンなどで光の調節を図ったり温度や湿度を測り記録したり保育士間で共有しています。また、定期的に換気し、こまめな掃除や消毒など衛生面でも配慮が行き届いています。 ○コットベットの導入を図り、寝具等は毎週の手入れをお願いするなど、衛生管理が徹底されています。 ○床はすべて木材で心地よい空間ですが、マットや畳、ソファなどを部分的に設置し、落ち着きくつろげる環境を工夫しています。また、木製の玩具を積極的に導入し使用しています。 ○トイレの清掃が行き届いており、手洗い場にイラストを張り手洗いの徹底や子どもが自ら手洗いができるような工夫（水が出しやすい取っ手や石鹸の位置等）がされていました。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 ■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 ■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 ■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 ■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 ■ 18 せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 	<p>○入園説明会・個別懇談などで、保護者の思いや状況を把握し一人ひとりの発達や家庭状況などの把握、保護者との連携に努めています。</p> <p>○月案会議やケース会議、日々の職員間の話し合いなどを通じて客観的な情報を共有し、個々の子どもに応じた保育を心掛けていました。</p> <p>○アセスメントに基づき個別計画を立て、個々の特性を把握し、丁寧な関わりをすることで、安心して生活し遊ぶことが出来るようにしていることが、園内見学や職員のコメント、記録から確認できました。</p>
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 ■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 ■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 ■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 ■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて子どもが理解できるように働きかけている。 	<p>○生活習慣を身につけるための指導計画が作成され、保育士自身がその大切さを理解して援助をしています。</p> <p>○手助けを最小限にして見守り、自分でやろうとする気持ちを大切に自信につなげています。基本的に異年齢で生活することが多いため、その中で身につくことも多いようです。</p> <p>○視覚支援（写真や絵カード）や絵本、紙芝居を活用して、子どもたちが見通しを持ち理解できるように工夫していました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 ■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 ■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 ■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 ■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 ■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 ■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 ■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<p>○子どもが自発的、意欲的に関わられるような環境について、専門家からのアドバイスや保育web、書籍などから常に学び工夫する姿が見られました。</p> <p>○子どものつぶやきや言葉を聞き取ることで、子どもの興味関心を探り保育に結びつけ、生き生きとした遊びや生活が出来るようにしています。</p> <p>○散歩だけではなく、自然と触れ合う工夫がされていました。(園庭に草むらを作り草花摘みやそこに来る虫などを観察する等)</p> <p>○体育教室での専門家からの指導を参考に、体を使って遊ぶことの楽しさを感じるように努めています。</p> <p>○「保育士だけが先生ではない」という考えから、子ども同士をつなげ助け合い教え合いながら協力して活動するように工夫していました。</p> <p>○今年度はコロナ禍のため、様々な社会体験が出来なかったが、園長や主任と保育士の連携とアイデアにより、地域のお店屋さんを訪問し、そこからごっこ遊びに展開させるなど、子どもたちの意欲を満足させる活動が見られました。</p>
			⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係(情緒の安定)が持てるよう配慮している。 ■ 36 子ども表情を大切に、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	<p>○明るい日差しが入る部屋で、室温や湿度に配慮し季節に合った室内環境が整えられ、遊びと生活(食事や睡眠)のコーナーが分けられるなど、快適に過ごせる工夫がされていました。</p> <p>○子どもの発達をふまえた手作り玩具などを用意し、ゆっくりと優しく話しかけるなど、温かく受容的、応答的に関わり援助していました。</p> <p>○愛着心を育てるため、特定の保育士とのスキンシップが大切にされており、子どもの表情から要求や思いを読み解く努力がされていました。</p> <p>○子どもの姿や発達をふまえ、保護者との連携により、月案計画や個別計画が立てられ個々に応じた保育を心掛けています。期や月ごとに子どもの姿を見ながら確認し見直しをしています。</p> <p>○保護者との連絡は、コドモン(ICT)や送迎時のやり取りから健康状態の把握やその日の心身の状態を伝え、離乳食の写真などの添付により保護者への啓もうや連携が密にできていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。 ■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 ■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 ■ 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 ■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。 ■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 ■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。 	<p>○個別計画にアセスメントを記入し、計画を立て十分な配慮をしながら保育をしていました。子どもの気持ちをくみ取り、急がせたり必要以上の援助はせずに関わる姿がみられました。</p> <p>○遊びを自由に選択し取り組めるよう、室内、園庭、散歩などで保育士の様々な環境づくりの工夫が見られます。（園庭の草むら作り、子どもが手の届く場所の遊びの仕掛けや様々な手作り玩具）このような環境の中で十分な探索活動ができています。</p> <p>○子どもの思いに寄り添い、ゆっくりと話を聞き、自我の育ちを見守り受け止めながら、友だちとの関わり方を丁寧に伝えるなどの保育士の姿が見られました。</p> <p>○通常の保育や行事などをおして、異年齢児との関わりが自然に見られ、小中学生・実習生・お年寄りとの関わりももてるようにしています。（コロナ禍のため今年度は中止の場合あり）</p> <p>○生活に必要な基本的習慣については、保護者との連携（コドモン・個人面談・保育参加）を心掛け、一人ひとりの状態に応じた対応がされています。</p>
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。 	<p>○基本的に縦割り保育をしていますが、子ども同士でパートナーを組み、手本になったり教え合ったりと異年齢の良さを大切にしたり保育をしています。また、発達の違いに配慮し活動により年齢別に保育がされていましたが、そのために必要な人員配置と保育士間での十分な話し合いがされていました。</p> <p>○各年齢の年間指導計画、月次計画等から発達や興味に合わせて活動の計画を立て、子どもが自主的に遊びや活動に取り組めるよう、環境が工夫されています。（コーナー遊びの充実）</p> <p>○子ども同士が話し合いを積極的に行い、自分の意見や気持ちを発する機会をもち、子どもが主体的に活動できる素地を作る配慮が見られます。また、トラブルが起きた時には、子ども同士で話し合う場を設け保育士は見守り、必要に応じて仲立ちをするなど、適切な関わりがみられました。</p> <p>○長野市は、小学校との連携が充実しているため、連絡会議などを通じて子どもの姿や活動を伝えるようにしていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑧ 障がいのある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input type="checkbox"/> 51 建物・設備など、障がいに応じた環境整備に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 52 障がいのある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 57 職員は、障がいのある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 <input checked="" type="checkbox"/> 58 保育所の保護者に、障がいのある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。	<p>○1階は、障がい者用トイレやスロープなどの設置がされ車椅子使用の子どもも受け入れ可能ですが、2階は身体障がいのある子どもに対応した設備が整っていません。今後受け入れる際には工夫が望まれます。(例：1階での保育等)</p> <p>○毎月、個別計画を立て子どもの育ちや対応の仕方などを保育士間で共有しクラスの活動と連携を図っています。</p> <p>○子どもの特徴に合わせた細やかな配慮が見られます。(例：写真や絵カードで見通しを持たせ理解を助ける など)</p> <p>○計画を立てる際も専門機関などのアドバイスを受け、にこにこ園訪問やtoday、きらり、保健センター、病院などと連携して保育を進めています。</p> <p>○研修に積極的に参加し実践につなげています。また、研修内容については、全職員に周知する仕組みがあり(職員会や書類での報告など)必要な知識や情報を共有していました。</p> <p>○保護者の不安や心配なことに寄り添いサポートに努めていました。家庭と園で子どもの姿を伝え合い専門家を交えた支援会議なども行い、不安感の軽減や成長を共有するよう努めています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 ■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 ■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 ■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 ■ 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 ■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 ■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。 	<p>○長時間にわたる保育を利用する子どもが多く配慮が必要ですが、子どもが安心できるような言葉かけや対応など、くつろいだ雰囲気でも過ごせるように工夫がされています。</p> <p>(くつろげるスペースを広げ、子どもの興味に合わせたコーナー遊びを設定するなど)</p> <p>○一日の疲れから不安定になる子どもや特に年齢の小さい子には、職員がスキンシップに心掛け情緒の安定を図っています。</p> <p>○夕方は水分補給も兼ね麦茶が提供されています。家庭での夕食に差し支えるため、あえて補食はないものの午後のおやつの際に個別に配慮されていました。</p> <p>○保育士間での連絡を密にし、子どもの姿について共有できるように努めています。職員間で連絡ノートなどを活用し子どもの姿や保護者への連絡事項などについて引き継ぎをしていました。</p>
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 ■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持つ機会が設けられている。 ■ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持つ機会が設けられている。 ■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 ■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。 	<p>○長野市広域から通園しているため、複数の小学校への入学となりますが、保護者の相談に応じるなど安心して移行できるよう配慮されています。</p> <p>○指導計画の中で就学に向けた取り組みにより、スムーズな小学校への移行ができるよう明記されています。(アプローチスタートカリキュラム)また、長野市独自の児童保育要録や来入児カードの作成により小学校との共通理解が図られています。</p> <p>○小学校職員と保育園職員で定期的に情報交換等の連携が行われ、園での生活から積み重ねられた様々な育ちを共有し連続性もてるようにしています。また、育てたい力、望ましい姿の見通しをもって子どもの発達状況を確認しあったり、特に配慮が必要な子どもへの援助の共通理解が行われています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 ■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 ■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 ■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 ■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 ■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 ■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 ■ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。 	<p>○職員全員がマニュアルに基づき子どもの健康状態や発達・発育状態について職員間で確認し、常に把握をしています。</p> <p>○保護者との連携を密にし、健康チェックカード（コドモン）に健康状態を記入し、玄関で検温も実施して、安全に集団生活が過ごせる配慮をしています。</p> <p>○「職員連携ノート」により健康状態を確認し職員間での周知を図っています。</p> <p>○SIDS等、午睡時に起こりやすい異変に対処するため、午睡時に定期的にチェックをし、記票するなどの配慮が見られました。 0歳：5分毎 1・2歳：10分毎 3歳以上児：20分毎</p> <p>○入園案内や保育参観などの場で健康管理について知らせています。また、掲示板で、新聞記事や「SIDS対策強化月間」等のポスター、パンフレット等の掲示や、保険だよりの配信により保護者への情報提供をしています。</p>
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 ■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 ■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。 	<p>○各種健診が計画に基づき実施されています。</p> <p>○健康診断の結果を家庭に速やかに伝えていきます。必要に応じて受診を促し生活の見直し等保護者支援をしています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 ■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 ■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。 	<p>○アレルギーによる食事の除去については、医師の診断書をもとに栄養士、園長、担任等が保護者と面談の上適切に対応しています。</p> <p>○通常の献立表のほかに、食材を細かく記入した献立表を配布し保護者と一緒に確認できるようにファイルを共有しています。</p> <p>○栄養士・調理員との連携、確認が確実に行われる仕組みがあり、誤食を防ぐ努力を職員全体でしています。（配膳前に複数で確認、食器の色を変える、他の子どもと席を離すなど）</p> <p>○アレルギー疾患のある子と周りの子どもたちに食材や症状等伝え、学び理解できるように取り組んでいます。</p>
	(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 ■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 ■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 ■ 91 食器の材質や形などに配慮している。 ■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 ■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 ■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 ■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。 	<p>○食育計画が作成され、栄養士、調理員も含めた全職員で取り組んでいます。また、毎月の献立検討会では、園長、主任、栄養士、代表の保育士が参加して喫食状況や献立内容について話し合い、次月に検討内容が反映されていました。</p> <p>○常に子どもたちが食事を作る様子を見ることが出来、給食室の壁面には食育に関することや今年度力を入れていることについて掲示され、子どもたちの食育につながっています。</p> <p>○子どもたちが食や食材に興味を持てるような様々な取り組みをしていました。（菜園活動・クッキング保育など）誕生会メニューでは、食材の切り方にも工夫をして楽しみながら食事ができるよう努めています。</p> <p>○食べられるものが増えるような配慮と言葉がけで、少しずつ食べられるようになっていきます。また、個人差に応じて食材の調理形態の配慮が見られました。</p> <p>○園の入り口に給食のサンプル提示をしドキュメンテーションで誕生会食・行事食・郷土食等を配信し、保護者が興味、関心を持てるようにしていました。また、保護者の希望により栄養相談も受けています。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p>○離乳食、アレルギー対応、宗教食など、事故防止ガイドラインに沿った食材を使用し調理しています。栄養士は、身長体重をもとに発育状況を把握しており、発達に合わせた刻み方や形態など工夫して提供しています。</p> <p>○食材はできる限り地元産を使い季節感のある食事の提供に努め、園で育てた野菜も提供していました。</p> <p>○献立はオリジナルのものを作成しすべて手作りの食事・おやつを提供しています。</p> <p>年2回嗜好調査を行い、献立検討会議に反映されていました。</p> <p>○今年度は『日本一周』がテーマで、全国の特産メニューを献立に取り入れて提供され、子どもたちの郷土料理への関心につながっています。</p> <p>○栄養士・調理員は毎日各クラスの喫食状況やクラスの様子を見て、要望など聞いたり食についての相談を受けたりしています。(コロナ禍以前は一緒に食事もしました)</p> <p>○衛生管理マニュアルに基づき安全で安心な食事の提供に努めています。</p>
	2 子育て 支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<p>○入園時説明会や、入園のしおり、月々の園だより、コドモン、ドキュメンテーションなどを用いて日常の活動を知らせています。さらにできる限り、保護者と直接話して伝えるよう心掛けていました。</p> <p>○クラス懇談、個人面談を実施したり日々の登降園の際に子どもの成長を共有できるようコミュニケーションを図っています。</p> <p>○保護者会、個別懇談会などの機会に保護者からの要望を把握し不安がないよう取り組んでいます。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 ■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 ■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 ■ 112 相談内容を適切に記録している。 ■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>○保護者にとって必要な情報や活動の様子をドキュメンテーションやコードモンを通じてタイムリーに発信することで保護者の安心や信頼が得られています。</p> <p>○保護者からの相談や要求には丁寧に応じ、常に全職員で情報を共有しています。</p> <p>○相談場所はプライバシーに配慮し担任だけでなく内容によっては、園長や主任も同席して保護者の支援をしています。相談内容は適切に記録、保管しています。</p> <p>○意見箱を玄関に設置し、保護者からの要望苦情に対し、職員会などで改善策を話し合い内容により開示するなど丁寧に対応していました。また、意見箱とは別に『教えてbox』を設置し互いに悩みの解消や教え合える関係を大切にし親力の向上を目指しています。</p> <p>○家庭の状況を把握し共感しながら、必要な場合には専門機関と連携するなどの支援をしています。</p>
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 ■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 ■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 ■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 ■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 ■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 ■ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<p>○日ごろから子どもの心身の状態を観察し（着替えや発育測定の際）、保護者の子どもへの関わり方に配慮しています。虐待等の可能性が見られる家庭とは、より密に連携を図るよう努めています。</p> <p>○虐待や不適切な養育態度が疑われる場合は、保護者のプライバシー等に配慮し関係機関（児童相談所、市保育課程支援課、保健師）との連携をとる仕組みがあります。</p> <p>○マニュアル（長野市虐待マニュアル）に基づき虐待についての研修会に参加し、職員に周知されています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。 ■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 ■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 ■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 ■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 ■ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	<p>○保育実践の振り返りを定期的に行い、指導計画の修正をして子どもの育ちに沿った保育をすすめています。職員会記録、月案、週案等で確認できました。</p> <p>○定期的な期毎の反省から、課題解決に向けて職員会、リーダー会議での話し合いがされています。また、専門リーダーのもとテーマを決めて園内研修が積極的に行われ、職員の学ぼうとする意識の高さがうかがわれました。</p> <p>○年一回、自己評価ガイドライン（厚労省）に基づき自己評価し、さらに園長との面談にて保育の確認をしています。そうしたことから園全体の評価につながっていました。</p>